（　１）子どもの話を聴くときは

兵庫県教育委員会　防災マニュアルに基づいて　　　文・篠原久美子

（　１）子ども声を聴くときは、

教えてもらう気持ちでね。

一生懸命、耳傾けて、

教えもらおう、子どもの世界。

子どもの世界の扉はね、

内側からしか開かないの。

信じるおとなに向かってね。

（　２）子どもの話を聴くときは、

じっくり、ゆっくり、ゆったりね。

言おうと思うと時間切れ、

中途半端は苦しいよ。

子どものつらさと言葉はね、

外に出るまで時間がいるの。

待ってる時間も、聴いてる時間。

（　３）子どもの話を聴くときは、

「聴いてるサイン」を伝えてね。

あいづちうって、うなづいて、

子どもの言葉を繰り返し。

不安な気持ちの子どもはね、

小さな合図で安心するの。

「ぼくをわかってくれてるな」って。

（　４）子どもの話を聴くときは、

途中で止めたりしないでね。

批判をしたりまとめたり、

言い聞かせないで、ただ聴いて。

おとなが口を開くとね、

子どもの口が閉じてくよ。

知りたいのなら、耳、開こう。

（　５）子どもの話を聴くときは、

瞳のサインをみていてね。

子どもはたいていおとなのね、

目なんか見ては話せない。

それでも分かってほしいとき、

瞳で合図を送ってる。

見逃さないで、みていてね。

（　６）子どもの話を聴くときは、

顔の高さを合わせてね。

上から見下ろされるとね、

だれでもちょっと固くなる。

視線の低い子どもにね、

しゃがんで視点を合わせてね。

子どもが話しやすいから。

（　７）子どもの話に答えるときは、

声の調子を同じにね。

大きな声や高い声、

おとなのイライラ伝わるよ。

子どもは意味を知らなくてもね、

声で気持ちがわかるんだ。

言葉が出にくくなっちゃうよ。

（　８）子どもの不安を聴くときは、

子どもの気持ちを感じてね。

「なぜ？」「どうして？」が、

問いつめに感じてしまうとき、あるの。

子どもの心配、不安はね、

「不安なんだね」って繰り返してね。

答えは、一緒に考えて。

（　９）子どもの不安を聴くときは、

すぐに原因、決めないで。

「地震のせいだ」「性格だ」、

決めてもそれは答えじゃないの。

子どもを取り巻く世界もね、

子どもの心も　単純じゃない。

広く大きな見かたでね。

（１０）子どもの悩みを聴くときは、

子どもの力を信じてね。

しっかり聴いて、じっくり支え、

いろんな見かたのアドバイス。

だけど最後は子どもがね、

子ども自身で解決するの。

おとなが信じた子どもはね、

乗り越えられるよ、大丈夫。